

## ① 林業・木材産業循環成長対策等（木材加工流通施設等の整備）

### シラカバを活用したオール道産木材複合合板の生産

#### 取組成果

- ◆ 小径で通直材が少ないシラカバ原木の活用が可能な新たな製造ラインを整備し、シラカバ単板の安定供給を可能にした。これにより、従前フロア基材の一部として使用していたMDF(外材)の取扱量を減らし、「オール道産材による複合合板」への転換を進めている。
- ◆ 令和5年度にはシラカバ原木を2,778m<sup>3</sup>使用。

#### 事業概要

- ◆ 実施地：北海道津別町
- ◆ 事業実施主体：津別単板協同組合
- ◆ 主な取組団体等：丸玉木材株式会社
- ◆ 事業実施期間：R4～

#### 取組のポイント

- ◆ 未利用樹種の活用と合板用原料の多様化を目指す上で、道産広葉樹の中で最も蓄積量があるものの、マテリアル利用が進んでいないシラカバに着目した。
- ◆ シラカバ原木は小径で通直材が少ないため、径級・曲がり等の課題解決に対応するため、自社開発の丸太選別機を導入するとともに、小径木用ロータリーレースの導入や、曲がりの大きい原木は半分に切断して曲がりの影響を抑えることにより、歩留まりの向上を達成した。

#### 取組内容

##### シラカバを活用したオール道産木材複合合板の生産

- ◆ 新たにリングバーカー、デッキソー、ロータリーレースを導入し、小径木や曲がりの大きい材に対応したシラカバラインを設置した。曲がりの大きいシラカバ原木(2m)を半分に切断することにより曲がりの影響が抑えられ、歩留まりが向上した。
- ◆ 自社開発の丸太選別機により小径、曲がりの大きいシラカバ原木を新たに設置したシラカバラインに振り分けるとともに、生産した単板は縦継ぎを行うことで、シラカバの効率的な利用を図る。



【デッキソー】



【ロータリーレース】



【フロア台板用のシラカバ合板】